



多摩支部設立10周年を祝う

東京多摩支部設立10周年記念式典が1月18日に、武蔵野スイングホールのレセプションルームにて開催され、102名が参加した。

山本憲一事務局長が司会し、最初に昨年の物故者への黙祷が行われた。挨拶にたった野口いづみ支部長は、「東京多摩支部は2010年2月に202名で発足したが、10年で323名の全国第二位の支部に成長し、新しい段階に入った。これからも安全、挑戦、ハーモニーを基本理念としてほしい」と述べた。

古野淳日本山岳会会長は10周年を祝し、「将来の登山愛好家を増やすために自然を楽しんでもらう仕組み作りが必要である」と述べ、あわせて花谷氏のヒマラヤキャンプと平出・中島氏のエクストリーム登山への応援を呼びかけた。多摩支部について、松本敏夫埼玉支部長は「活動がとても活発で、会員増加にも有効に働いている」、込田信夫神奈川支部長も「非常によく組織化された優秀な兄貴」とそれぞれお褒めくださり、祝辞とした。



野口いづみ支部長



古野淳 JAC 会長

続いて支部に功績のあった13人が表彰された。設立以来6年以上役員を務めた7人(竹中彰氏、酒井省二氏、小川武氏、高橋重之氏、富澤克禮氏、川越尚子氏、長澤登氏)に功労賞が、支部の活動に尽力した6人(神崎忠男氏、宮崎紘一氏、木村康雄氏、城所邦夫氏、金邦夫氏、西村智磨子氏)に一般表彰が贈られ、野口支部長から各自に表彰状が手渡された。受賞者を代表して、8年間支部長を務めた竹中氏が挨拶をした。

続いて支部に功績のあった13人が表彰された。設立以来6年以上役員を務めた7人(竹中彰氏、酒井省二氏、小川武氏、高橋重之氏、富澤克禮氏、川越尚子氏、長澤登氏)に功労賞が、支部の活動に尽力した6人(神崎忠男氏、宮崎紘一氏、木村康雄氏、城所邦夫氏、金邦夫氏、西村智磨子氏)に一般表彰が贈られ、野口支部長から各自に表彰状が手渡された。受賞者を代表して、8年間支部長を務めた竹中氏が挨拶をした。

次頁に続く→

功労賞を受けた方々



一般表彰を受けた方々





神崎忠男氏が乾杯の音頭をとり、和やかなパーティがスタートした。和洋中の盛り皿が並ぶテーブルの周りには、毎週のように合わせる顔もあれば、久しぶりに見る顔もある。すぐにあちこちで話に花が咲き始めた。宴たけなわのころ、ザンスカール遠征隊の北島隊長が寄付を訴え、新永年会員2名と新入会員7名が紹介され、「山の歌を唄う会」の部員による「雪よ、岩よ〜♪」の歌声が響き渡った。祝典も2時間を過ぎるころ、高橋清輝記念事業実行委員会委員長が閉会の挨拶をし、本多祐造氏による恒例の“多摩の七つ締め”をもってお開きとなった。終始なごやかな雰囲気の良い祝賀会であった。(文/石塚嘉一、写真/廣田博)

重廣恒夫氏による記念講演開催される



祝典に先だち、重廣恒夫前日本山岳会副会長による記念講演「ヒマラヤ登山—爛熟期を振り返る」が武蔵野スイングホールで開催された。参加者は93名。重廣氏は2016年までに13回のヒマラヤ登山に参加した経験を語った。

中学2年で『処女峰アンナプルナ』を読んだことが、ヒマラヤを目指すきっかけになったという。高校、大学の山岳部を経て、1973年、エベレスト南西壁登山隊に参加したのが初めてのヒマラヤ。1977年にK2に日本人として初登頂(第2登)。1980年、チョモランマ(8848m)北壁を尾崎隆と2人で初登攀。1988年には登攀隊長として世界初のチョモランマ交差縦走を成功させた。1992年、ナムチャバルワ、1995年、マカルー東陵の初登攀などを指揮。72歳になっても、年間150日山に入る。山に登るのが一番いいトレーニングと語る。よく今まで無事に生還してこられたと、感にいたる講演だった。(文/石塚嘉一、写真/廣田博)

JAC 年次晩餐会開催される

12月7日に新宿の京王プラザホテルで、日本山岳会年次晩餐会が開催された。天皇陛下がご出席され、参加者は508名、多摩支部から58名が参加。

天皇陛下、古野会長、谷垣氏などで鏡開き

展示会では台風と豪雨による山の被災調査結果を発表した。講演会はエクアドル国交樹立100周年記念登山を、安間繁樹氏と中島建郎氏が報告するなど充実していた。東海支部との二次会にも多くの会員が参加し、親睦を深めた。

—今後の10周年記念事業—

*印はチラシ参照

- 4月5～16日●海外トレッキング
「エベレスト街道」*
- 4月11日(土)●懇親山行「御岳山 長尾平」*
- 5月上旬 ●記念誌発刊
- 6月20～25日●海外トレッキング
「モンゴル テレルジ」*
- 7月18～8月10日●海外遠征
「インド ザンスカール未踏峰」*
- 10月10～11日●懇親山行「雲取山集中登山」

南関東三支部合同懇親山行

日帰りで奥多摩むかし道と懇親会を楽しむ

【日時】2019年10月26日(土)

【天候】晴

【参加者】32名/埼玉支部3名、神奈川支部6名、東京多摩支部14名+スタッフ9名

[1班]班L長瀬、SL富永、林、竹内、込田、竹中、矢澤、富澤、寺井、山行L石井、

[2班]班L武藤、SL植草、松本、永井、藤川、三木、小澤、佐藤(文)、高橋、西山、山行SL小野、

[3班]班L河野、SL齋藤、本村、植木、野口、佐藤(守)、大澤、岡、清水、岡田 山行SL北島

【行程】10:00 奥多摩 BC→10:30 槐木→11:15 不動の上滝→11:55～12:25 白髭神社(昼食)→

12:50 惣岳の不動尊→13:35～45 消防訓練所→14:05～14:25 西久保切り返し→

14:40 桃ヶ沢バス停=14:55 南2丁目→奥多摩 BC

【記録】

三支部合同懇親山行は今回、東京多摩支部が主催となり、初めて日帰りとした。本仁田山と日原鍾乳洞見学を予定したが、台風19号による豪雨の被害を受け、奥多摩むかし道ハイキングコースを歩くことに変更した。奥多摩駅前に集合し、奥多摩 BC で山行 L 石井氏が「奥多摩むかし道」の説明をして出発。BC 近くに「むかしみち入口」の案内板があった。しばらく行くと小河内ダム資材輸送のための鉄道跡があり、蒸気機関車が走っていたとのこと。坂道を歩いていくと、槐木(さいかちぎ)に到着。峠の茶屋があり賑わっていたらしい。不動の上滝は豪雨で水量が多かった。境集落は豪族三田氏と関わりのある集落とのこと。白髭神社で昼食を摂る。その後、道沿いに弁慶の腕抜き岩と親しまれている大岩があった。しだら吊橋から濁流の川を眺めた。立派な石桶でつくられた馬の水のみ場には東京府馬匹畜産組合連合会と彫られ、歴史と馬を大切にしていたと感じた。7 km弱のハイキングだったが、耳神様・縁結び地蔵尊・厳道の馬頭様・虫歯

地蔵・牛頭観音・玉堂歌碑・道所吊橋・道祖神と見どころ満載だった。西久保切り返しからの登山道は通行止めになっていた。桃ヶ沢バ

ス停からバスに乗り、奥多摩 BC で解散した。

懇親会は BC 隣の木村邸ギャラリーで開催。三支部長の挨拶後、ワインで乾杯。坂本シェフの手料理に箸がつけられた。奥多摩名物「天益の餃子」も届き、奥多摩の銘酒「澤乃井」が次々と開けられた。中締め後、恒例の多摩の七ツ締めでお開きとなった。ハイキングと懇親会は好評で、支部の交流を図ることができた。

(文/山本憲一、富永真由美、写真/長岡誠治)



石井ガイドの案内に耳を傾ける



奥多摩 BC 前で全員集合

<自然保護委員会講演会>

高尾山にも迫りつつあるシカの食害

10月29日に立川市女性総合センターで高槻成紀氏（麻布大学いのちの博物館上席学芸員）による講演会を自然保護委員会が主催し、シカによる自然植生への影響について講演していただいた。参加者は会員27名、会員外19名、合計46名だった。

現在、太平洋岸の広い範囲で「激」～「強」レベルのシカによる被害が見られる。「激」とは土砂崩れなどの防災上の問題が発生し、「強」は植物が貧弱になり多くの植物が減少し、本来の植生から変形した状態。農林業への被害は、サル、イノシシ、ネズミなどでも起きるが、自然植生への被害はシカだけである。シカが増えれば植物が減少し、種々の動物に間接的な影響を与えるが、土壌への影響もある。奥多摩で土壌流出から大規模な土砂崩れが起きた。東京西部ではシカは奥多摩の一部にしかいなかったが、1992

年には奥多摩町全域に広がり、2007年には檜原村を含む山地から丘陵にかけての範囲を覆うようになった。2015年以降は丘陵地の末端に達し、高尾山にも侵入した。高尾山に侵入が確認されたことは重要で、事実を的確に捉え、対策を十分に議論し、迅速に対応する必要がある。



高槻氏

質疑応答では、植林の管理、ダニの問題、高尾山のシカ情報のネットワーク化、オオカミの導入などが討議された。最後に氏が地元の人達と行った玉川上水岸辺の樹木や野草の観察結果をまとめた小冊子「玉川上水花マップ」の紹介があった。（文／河野悠二、写真／石塚嘉一）

<安全対策委員会講演会>

奥多摩における山岳遭難事故の実態と事故の防止

10月2日に立川市女性総合センターで安全対策委員会が青梅警察署山岳救助隊の亀田副隊長と禰寝隊員を講師とした講習会を開催した。参加者は64名（会員28名、会員外36名）だった。亀田隊長は、多摩地域には青梅、五日市、高尾警察署に山岳救助隊が組織され、救助活動を行っていること、昨年（2019年）の全国事故件数は過去最多の2661件、都道府県別で最も多いのは長野、北海道、東京（147件）、山梨の順だったこと、奥多摩の件数は横這いだが高尾山の件数が多かったこと、9月末の青梅警察署管内の事故件数は昨年とほぼ同数だが、死亡・行方不明事故が増加していることを報告した。



亀田副隊長

禰寝隊員は、青梅警察署管内で近年発生した遭難事故8件について、雪の三頭山の外国人13

名の事故などマスコミをにぎわした事例を含め、初心者からベテランまで8件の事故について、地図と写真を使って紹介した。安全登山のポイントとして、山アプリ（GPS）を入れたスマートフォンと予備バッテリーを持つこと、紙の地図も持ち、読図力をつけておくこと、ヘッドランプと雨具は必携、登山計画書（山と自然ネットワークコンパス）の活用も良い）を提出すること、体力をつけること、迷ったらわかる所まで登り返し、沢に降りないこと、パーティーで別々の行動を取らないことなどを挙げた。救助要請については、早めに要請すること、要請後は動かず救助隊の



禰寝隊員

指示に従って救助を待つこと、ビバークできる準備しておくことを挙げた。多くの質問があり、熱心に議論が行われた。（文／吉川三鈴）

縦走中におけるロープ使用法講習会

10月20日(9:50～15:35)に奥多摩町の登計峠で、北島英明講師(安全対策委員会委員)によるロープ使用法講習が行われた。受講生は18名(委員7名)で、植草、内村、大澤(則)、白川、中村(敦)、中村(美)、濱野、人見、広瀬、吉川、清水(茂)、小山、村岡、青木、内藤、中村(哲)、石井、佐藤。
 実地講習の内容は次のようだった。

- (1) チェストハーネスの作り方。120cmのスリング(体の大きい人は150cm)を使用するが、幅が細い物だと力が加わった時に痛いので幅2cmあると良い。
- (2) エイトノット、ムンターヒッチ、クローブヒッチ結びを確認した。ムンターヒッチ、クローブヒッチはカラビナの掛け方を間違えやすいので、反復練習した。
- (3) 平坦な場所でムンターヒッチを使用して懸垂下降、登り返しの練習をし、懸垂下降時のロープの固定方法も学んだ。個人用7mm×10～12mロープを連結して使用する時は、エイトノットで連結する。ダブルフィッシャーマンで連結すると結びのこぶがカラビナに引っかかり通過出来なくなるが、エイトノットだと結びの一方が平らになるためカラビナを通過する。使用するカラビナはHMS型の大きい物が適しており、個人用ロープの長さは結びのことを考えると12～15m必要。
- (4) 斜面で支点到ロープを固定し、チェストハーネスに装着した安全環付きカラビナにムンターヒッチでロープをセットし、懸垂下降と登り返しの練習を行った。
- (5) エイトノットで連結したロープを使用して、懸垂下降、登り返しをした。結び目がカラビナを通過する時、ムンターヒッチに引っ掛かる。懸垂下降時は問題無く結び目が通過したが、登り返しの際は難しく時間を要した。
- (6) 支点的な安全環付きカラビナにロープをムンターヒッチでセットし、下降と引き上げを行った。その後1/2システムの引き上げを教わった。1/2システムは支点的なカラビナにエイトノットでロープを固定し、要救助者のカラビナにロープを通して折り返し、別の支点的なカラビナにムンターヒッチで結び引き上げる。1/1の時よりかなり軽く引き上げられた。

重ねて受講し、日頃から練習・習得することが大切と思った(文・写真/中村哲也)



これからも講習会を受講します!



引き上げはこうします

ミニレポート

男山(西上州)西面のダイレクトコース

日時/2019年10月28日(月)
 参加者/L中村(哲)、中村(照)、今村(会員外)

ダイレクトコースは林道を外れ岩稜に取りつくまでが難しかったが、1時間で基部に着く。クライミングとしては難しくないが、高度感があり気持ち良かった。



頂上からダイレクトコースを振り返る



2ピッチ目の第二岩稜

山行報告

<9月定例山行>

唐松岳・五竜岳 —3000m級の山に挑戦—

【日時】2019年9月14日(土)～16日(月)

【天候】快晴

【参加者】8名／L小野、SL酒井、富永、長岡、中村(正)、山内、人見、内村

【行程】1日目／6:25 白馬八方ゴンドラリフト発→7:25～45 八方池山荘→8:20～30 第2ケルン(2005m)→8:55～9:05 第3ケルン(2080m)→9:55～10:25 扇雪溪(2200m)→10:48～53 丸山ケルン(2430m)→12:01～15 唐松岳山荘→12:48～13:20 唐松岳→13:45 唐松岳山荘(泊)
2日目／6:50 唐松岳山荘発→9:50～10:10 五竜山荘→11:25～12:20 五竜岳→13:15 五竜山荘(泊)
3日目／6:09 五竜山荘発→7:20～25 西遠見山(2248m)→8:20～30 大遠見山(2106m)→9:05～10 中遠見山(2037m)→9:40～10:00 小遠見山(2007m)→11:52 地蔵の頭→12:30 テレキャビンとおみ駅

【記録】

◇9/14◇6:30、八方ゴンドラリフト「アダム」に集合。ゴンドラとリフトを乗り継いで、7:24に八方池山荘前着。整備された登山道を進む。唐松岳山荘手前は狭い岩場を慎重に通過した。山荘に到着後、唐松岳山頂を目指す。12:48、山頂着。360度のパノラマを堪能した。唐松岳山荘は大混雑。夕食はハンバーグ定食で大変満足。20:00、あまりの狭さに、ほとんどの者は熟睡できなかった模様。

◇9/15◇5:20頃に日の出を堪能。7:00に元気澁刺組(前発組)と不調組の2名(後発組)に分かれて五竜山荘を目指す。天気は無風快晴。朝焼けの劔岳、立山は言葉で表わせないほど美しかった。下りの岩稜帯「牛首」を通過することを楽しみにしていた。少し歩くと、早速、最初

の鎖場が出てきた。足場をしっかりと確保することと3点支持を唱えながら進んだ。岩稜の鎖場を終えた時は両腿がパンパンだった。五竜山荘に前発組は10:00前に、後発組は12:00に到着。山荘から岩稜帯を90分登って到達した山頂は素晴らしい大パノラマ。夕食はカレーライス。五竜山荘も就寝スペースの少なさを覚悟したが、我々の部屋はすいていて、快眠できた。

◇9/16◇4時起床。6:09、出発。遠見尾根は長くアップダウンが多い。鎖場もあり、慎重に下山する。五竜岳と鹿島槍ヶ岳のカクネ里雪溪の迫力は格別だった。地蔵の頭に着いたときはホットした。13:08、テレキャビンとおみ駅着、解散。

(文/長岡誠二、写真/人見茂子、酒井俊二)

😊長岡感想・山小屋でのメンバー同士の会話は疲労感を忘れさせてくれた。諸先輩のお陰で無事に登山できた。

😊人見感想・初心者から初級者登山教室を卒業して3年目、北岳に続き3000m級の山に挑戦できた事に感謝。最高の3日間だった。



五竜山頂にて



五竜山頂から白馬岳、杓子岳、鐘ヶ岳を望む

<10月定例山行>

御座山 ー植生の変化を楽しむー

【日時】2019年10月5日(土)

【天候】快晴

【参加者】9名/L小野、SL鬼村、酒井(俊)、大澤、佐久間、川島、鎌塚、今野、三尾

【行程】6:10 分倍河原駅=須玉 IC=9:30 ~ 55 長者の森登山口→11:10 ~ 20 白岩分岐→

12:19 ~ 35 見晴台→13:19 ~ 29 前衛峰→14:20 ~ 50 御座山→15:49 ~ 16:00 前衛峰→

16:28 ~ 32 見晴台→17:05 ~ 15 白岩分岐→18:13 ~ 19:13 長者の森登山口=22:13 分倍河原駅

【記録】

早朝、分倍河原駅をマイカー2台に分乗して出発。中央高速道須玉 IC から R141 佐久街道に出、R299 経由長野県北相木村の長者の森駐車場に計画より30分早く着いた。

9:55、出発。キャンプ場を通り、林道の終点から登山道に入る。小沢を渡り、ゆっくり登って行く。40分ほどで九十九折の急坂を登ると、小尾根に出た。その先の高圧電線の鉄塔で一休み。白岩コースとの分岐点から再び穏やかな登りを歩くと、針葉樹の原生林に変わり、シャクナゲのトンネルの急坂を登ると見晴台に着き、昼食を取った。

痩せた岩場交じりの尾根を登ると前衛峰の肩に着き、やがて前衛峰に着いた。御座山が間近に黒々と高く見える。急な岩場を慎重に下り、2つ起伏を越えると、うだの沢のトーマのコルに着いた。原生林の中、木の根の急坂を上ると避難小屋。小屋の横から岩稜に出て、細い岩尾根を北に少し行くと小さな祠がある御座山の山頂(2112m)に着いた。北に荒船山、妙義山、浅間山、西に蓼科山、南西に八ヶ岳、南には奥秩父の山々が連なり、360度の大展望。

御座山山頂から荒船山を望む



14:50、下山スタート。うだの沢のトーマを過ぎ、岩場の道を登る。最初の起伏を登ったあたりで、体調を崩した者があり、1名が付き添った。7人は先行して前衛峰で待った。2名は20分程遅れて到着。無線機で連絡を取りながら下山することにした。先行7名が送電鉄塔を通過した時は日没10分前の17:20で、ヘッドランプ装着。日没15分ほど後、ヘッドランプを点灯して30分ほど歩くと街灯がある林道に出て、ほどなく長者の森登山口に着いた。約30分遅れて2名を迎え、帰途についた。

(文/小野勝昭、写真/酒井俊太)

👉 鎌塚感想・春には大輪の花を咲かせるであろうシャクナゲを想像していると、次々と現れる急坂。登るにつれ変わっていく植生を楽しんだ。山頂では開放感の中、金峰山や八ヶ岳が見渡せ、この上なく爽快な気分。

👉 今野感想・初級者登山教室終了後、初の定例山行の参加。続く急登、シャクナゲトンネル、岩場にへばりついて登り、仲間のサポートにより山頂にゴールイン。天気に恵まれ最高のご褒美!



小さな祠のある御座山山頂にて

<11月定例山行>

浅間隠山 —浅間山と鼻曲山を眺めながら—

【日時】2019年11月9日(土)

【天候】晴れ

【参加者】22名/総括L濱野、[1班]班L齊藤、小野、神戸、三尾、人見、嶋田、解良、[2班]班L富永、野口、石川、今野、石原、吉川、大澤、[3班]班L鬼村、佐久間、櫻井、山内、小林、清水(節)

【行程】7:45京王高尾駅=(バス)=11:25浅間隠山登山口発→市倉尾根分岐→

13:10~45浅間隠山山頂→15:15登山口着=15:45~17:00鬼押温泉=(バス)=20:00京王高尾駅

【記録】

11月の定例山行は1泊2日で浅間隠山と鼻曲山の予定だったが、鼻曲山のコースが台風による被害を受けていることが分かり、浅間隠山を日帰りで実施することにした。

11:25に駐車場を出発。北へ100m程一般道を歩き登山口へ。二度上峠から登山道が始まるが、台風の影響か登山道に流木や折れた木々や枝が多く、崩れ気味の場所もあった。気温は9℃程度と暖かかった。時折木々の切れ間から背後(南側)に鼻曲山が遠望できた。天井を見て寝ている人の横顔のような山容を眺める。荒れた道は登り始めのみだった。落葉した木々の登山道は先の見通しが利き歩きやすい。標高1600mを過ぎると笹に挟まれた急登となるが、



鼻の形もじっくりと鼻曲山



浅間山を背景に浅間隠山山頂にて

ペースが落ちることなく順調に進んだ。山頂直下で北東から北西に登山道の向きが変わると、西側に雄大な浅間山が見えた。13:10に山頂(1757m)着。真っ青な空に向けて白い噴煙を上げる浅間山を背にして記念撮影。広いとはいえ山頂だが360度の眺望がきく。少し長めの休憩を取り下山を開始した。順調に下山し15:15に登山口へ戻った。浅間隠山はアクセスと眺望が良く危険な個所もないので、雪山シーズンの山行も期待させた。

鬼押温泉の赤茶けた源泉を満喫し、ロビーで一杯を酌み交わし、一路東京へ向け出発。今回は野口支部長が出席され、その意味でも良い懇親の機会とすることができた。

(文/濱野弘基、写真/大澤則彰)

ミニレポート

伯耆大山&蒜山三山

日時/2019年10月26-27日(土-日)

参加者/L内藤、赤坂(憲)、赤坂(優)、石橋、鬼村、濱野

26日 大山寺—大山(弥山)—大堰堤—大山寺

27日 犬狭峠—下蒜山—中蒜山—上蒜山—登山口駐車場



中蒜山から蒜山高原を見下ろす



中蒜山山頂にて

大山のキャラボク純林は圧巻。

でも山頂が工事立入禁止で残念!蒜山の笹原の縦走路は解放感抜群!

<9月平日山行>

甲州高尾山 — 「また、来おしょー」に送られて—

【日時】2019年9月5日(木)

【天候】曇

【参加者】6名/L 齊藤, SL 小野, 小口, 植草, 金山, 川島

【行程】9:00JR 勝沼ぶどう郷駅発=(タクシー)=9:20 大滝山不動尊→11:40～12:05 富士見台→12:45～13:00 甲州高尾山→14:35 大善寺登山口→JR 勝沼ぶどう郷駅

【記録】

前日の長時間豪雨の影響により50分遅れでJR 勝沼ぶどう郷駅に到着した。タクシーで鹿避けゲートを通り、400mの標高を稼ぐことができた。

登山口にある大滝不動尊奥宮は、山奥ながら歴史ある修験霊場の建物が綺麗に残されており、本堂裏の男滝は140mの落差があり見事。本堂脇からスタートした。樹林帯をトラバースしながら一登り、勝沼の葡萄畑を見下ろせる展望台で一休み、再び林道に戻り甲州高尾山のある稜線を目指す。

登山道に入ると大きな倒木が数多く、潜ったり跨いだりのアドベンチャー歩行。稜線に出たものの富士見台へは踏み跡が少ない巻き道に入り込んでしまい、遠回りをして到達した。巻き道にはススキや萩の花がかぶさり、これをかき分けての歩行で、たっぷり秋の気配を感じた。

富士の见えない富士見台で昼食を取り、甲州高尾山へ向かう。その昔、山火事が原因で南面の視界が見事に開けた尾根を緩やかに下ると1106mの甲州高尾山のピークに到着。



甲州高尾山山頂にて

ここからの下りに気が抜けなかった。細い馬の背のような尾根は、かなりの急勾配。九十九折の小石のザレた滑りやすい急坂を6人は慎重に下る。中央高速道を見下ろし、やがて民家や車道が近くなると最後に鹿避けゲート、そこには「気をつけて帰れしー、また、来おしょー」のねぎらいの貼り紙。登山口に到着したのは、計画の20分遅れだった。

(文・写真/齊藤理恵子)

ミニレポート

巻機山前衛峰の金城山 (1369m)

日時/2019年11月3日(日)

参加者/L 植竹(会員外)、SL 山谷(会員外)、石原、植草、野口

行程/新田—水無しコース—金城山—滝入りコース—新田(周回)



絶壁上の山頂は絵画のよう

登りも下りも鎖とロープの多い、一辺倒の急坂。標高の割に山容は大きく、山頂部は峩々たる巨岩、奇岩帯。最後は沢をヘッドン下山。登りがいのある山だった。



急登でも錦秋が目を楽しませる

<11月平日山行>

羅漢寺山 一紅葉と花崗岩の奇岩を満喫一

【日時】 2019年11月28日(木)

【天候】 曇り

【参加者】 16名 / L 清水(茂)、[A班] L 小野(勝)、吉田(博)、人見、中尾、嶋田、松田、中島、
[B班] L 鬼村、SL 酒井(俊)、木谷、川島、渡辺(と)、櫻井(美)、今野、中村(敦)【行程】 9:00 甲府駅=タクシー=10:00 ~ 15 獅子平→11:30 ~ 50 太刀の抜き岩→白山展望台→
12:00 ~ 30 白砂→13:10 白砂山→14:00 パノラマ台→14:25 弥三郎岳山頂→
14:55 ロープウェイ→15:25 仙娥滝→昇仙峡遊歩道 (5時間40分)

【記録】

甲府駅からタクシーで獅子平へ。甲斐市自然観察路を登り始める。獣除けのゲートを抜けて森林の中に入る。道はよく踏まれているが、時折倒木が道を塞ぐ。テープ、赤ペンキがある。1時間ほどで分岐に出る。進行方向の逆へ5分ほど登り太刀の抜き岩へ。とんがった岩が現れる。分岐まで戻り、先へ進むと紅葉した木の間から白い山肌が見えてくる。さらに進むと白山展望台の立派な看板に到着。左に登りつめると白い山が急に広がる。紅葉の山々がオレンジ色に染まっている。西に茅ヶ岳ととんがっている太刀岡山が見えた。

展望台から分岐まで戻り、昼食を取る。濡れた落ち葉のトラバースを滑らないように注意して歩く。白砂山の分岐に到着、白砂山までは片側が切れて落ちている。白砂山へ到着すると、前方には弥三郎岳の丸い山頂が見える。奇岩がそびえる断崖が美しい。白砂山を後にしてパノラマ台までひと登り。登りきると断崖の上に出てうぐいす谷で展望が開ける。さらに進み八雲神社、パノラマ台に到着。パノラマ台の前に羅漢寺山の山梨百名山の標柱がある。白砂山、パノラマ台、弥三郎岳を総称して羅漢寺山という。



高度感とスリルがある弥三郎岳山頂にて

雨がポツポツと降ってきた。休憩をとり、弥三郎岳へ向かう。展望台を通り過ぎ、弥三郎岳登り口へ到着。「この先クサリハシゴ注意」の看板、弥三郎権現の祠もある。山頂は狭いのでザックをデポして、岩が階段状に削られた所を登ると、遮るものが何もない丸い山頂に出る。雨も降っていないし、風もなかった。弥三郎岳から先の岩の階段を上がると三角点があり、周りにはお賽銭と思しき硬貨がたくさんあった。パノラマ台へ戻り 15:00 のロープウェイに乗る。賑やかな通りを抜けて昇仙峡遊歩道へ向かう。階段を下ると雄大な仙娥滝が現れた。駐車場で解散。参加者から楽しい山行だったと言われて嬉しかった。(文/清水茂美、写真/酒井俊太)



白山展望台から左に茅ヶ岳、右に太刀岡山

新人です。よろしく！

登山教室6期修了生です

左：嶋田恵美子さん
走るのが好きで先日も水戸のフルマラソンを完走！

右：櫻井美奈子さん
能生のカニは日本一！食べにいらしてください。



<中級登山教室>

権現岳 ー重い荷を担いでー

【日時】2019年11月16日(土)～17日(日)

【天候】1日目/晴れ一時霧、2日目/晴れ

【参加者】8名(講師1名、受講生7名)

L宮崎、〔企画〕植草、村岡、〔食料〕齋藤、富永、〔安全〕清水(茂)、〔記録〕中原、〔装備〕西山

【行程】1日目/9:15小淵沢駅=(タクシー)=9:30～45 観音平→11:00 雲海展望台→

12:05～35 押手川(昼食)→14:25 青年小屋

2日目/7:30 青年小屋発→9:30～55 権現岳→10:50～11:25 三ッ頭(昼食)→

14:15 天の河原→14:25～15:15 天女山駐車場=(タクシー)=15:50 小淵沢駅

【記録】

◇11/16◇小淵沢駅(14℃)からタクシーで観音平へ。受講生は女性ばかり7人。テントと食料に水3Lを担ぐ。重荷に大きな不安を抱えて出発。ザックが大きく、後方から皆の頭が見えない。雲海展望台で休憩。富士山の展望を楽しむ。荷を下ろせるのは嬉しいが、背負うのが大変。2000mを越えてから登山道は雪。凍っている箇所は滑りそう。押手川で昼休憩。手が凍えるほど冷たくなった。標高を上げるにしたがって、ガスがかかり、風も強い。14:25 青年小屋着。強風でテント設営に苦勞し、体が冷えきった。ひとつでも多くの山へ登りたがる私達だが、「編笠山へ行こう」とは誰も口にしなかった。白菜と豚肉のミルフューユを食し温まる。一晩中、強風が吹き荒れ、テントごと飛んでしまいそう。

◇11/17◇5:00起床(-8℃)。風はおさまらない。ゆったりと朝食。「このまま下山するのだろう」と思っていた。宮崎講師から「権現岳へ出発する」と言われ慌てた。テント撤収も風で大変だった。7:30 出発。富士山が綺麗に見え、風もおさま

てきた。昨日よりザックが軽く、心も軽くなる。1時間ほど歩いた所で休憩。カラマツの黄葉が綺麗に見える。樹氷を見て、ハイマツ帯を越えてノロシ場に来ると、西ギボシの岩壁が迫ってくる。鎖の連続、雪道を慎重に歩いた。権現小屋が見えてから、雪のついてる下りが怖かった。権現岳の山頂は狭いが、360度の展望は圧巻。赤岳・阿弥陀岳が並び立つ景色は素晴らしかった。急な下りをダケカンバ林まで下り、三ッ頭へ登り返す。前三ッ頭を過ぎ、長くて急な笹原の道を下る。飽きてきた頃に傾斜が緩やかになり天の河原に着く。ほどなく天女山駐車場着。

今までで最高の重さのザックを担ぎ歩けたこと、強風の中、女性ばかりでテントを張れたこと、展望を楽しめて、富士山が一日中一緒だったこと、凍結箇所をアイゼンなしで歩けたこと、駅までの車窓で紅葉が楽しめたこと。また一つ、経験を積めた。宮崎講師に感謝。共有できた仲間達との出会いに改めて感謝。

(文・写真/中原三佐代)

三ッ頭にて万歳! 背景は左から阿弥陀、権現、赤岳

バランスを取って岩場を登る



< 第7期初級登山教室 >

硫黄岳 ー台風が来る前にー

【日程】2019年9月7日(土)～8日(日)

【天候】両日とも晴れ

【参加者】34名(受講生 22名、スタッフ12名) 山行L河野、〔1班〕石橋、長田、上市、茅野、高橋、原田、矢野、班L小河、班SL中村(正)、講師宮崎(紘)、SP小澤、〔2班〕暁、上田、小林、菅野(浅)、菅野(尤)、元木、山本(曜)、班L山本(憲)、班SL小山(幸)、SP植草、〔3班〕小泉、近藤、高岡、中尾、中村(美)、馬場、藤本、皆川、班L土井(充)、班SL広瀬、SP石原、SP竹中

【行程】1日目/7:20立川発=(貸切バス)=10:10～40美濃戸口→11:50～12:20美濃戸山荘(昼食)→13:15～30堰堤→14:50～15:10赤岳鉱泉→15:45～55中山展望台→16:30赤岳鉱泉(泊)
2日目/6:35赤岳鉱泉→8:25～35赤岩ノ頭→9:05～25硫黄岳→9:45～50赤岩ノ頭→11:10～12:00赤岳鉱泉(昼食)→12:55～13:05堰堤→13:45～55美濃戸山荘→14:55～15:35美濃戸口=(貸切バス)=19:45立川着

【記録】

◇9/7◇台風が近づいており、天気の崩れが心配されたが、美濃戸口では快晴で暑いくらい。快適な気温で登山日和。美濃戸山荘で昼食を摂る。堰堤広場から北沢沿いの登山道となる。何度も沢を渡り返すと突然、大同心・小同心の岩峰が前方に見えた。最後は赤岳鉱泉と横岳稜線の岩稜が目に飛び込んでくる。小屋に荷物を置き中山展望台を往復する。中山峠から最後の急登を上がると、赤岳と阿弥陀岳の展望が素晴らしい展望台に飛び出す。月が薄っすら見える。赤岳が青空に映えて豪快だ。小屋は今回2階4室が貸切で、入浴ができた。夕食はいつもの鉄板ステーキ。サービスワインと持参ワインで盛り上がる。夕食後は懇親会をして早めに解散した。

◇9/8◇5時朝食。6:35予定より早く出発。快晴で寒くない。赤岩ノ頭まで樹林帯の急な登りが続く。ハイマツが現れると赤岩ノ頭は近い。一気に展望が開け、北八ヶ岳方面、北ア、乗鞍、



台風直前の蒼空の硫黄岳山頂にて

御嶽、中ア、南アと360°の展望が眺められた。帰宅時の公共交通機関の心配もあったが、硫黄岳頂上に向かう。天気情報収集とバスドライバーとの連絡を取りながら進む。風が強くなり帽子を飛ばされないよう、手袋着用、ストック使用などを指示。無事岩場を通過し広い硫黄岳頂上に出る。素晴らしい展望を楽しむ。集合写真撮影後に頂上を後にし、慎重に赤岩ノ頭まで下る。急な樹林帯を気を抜かないよう小屋まで下り、昼食をとる。下りの3時間が長かったが、順調に堰堤広場まで下りた。後は2時間の林道歩き。美濃戸山荘で5期登山教室修了生の山本(智)さんがお菓子付きで出迎えてくれ、少し元気になった。予定より30分程早く美濃戸口をバスで出発。雨の降っていない立川に予定より30分前に到着した。皆、きっとスムーズに帰宅できただろう。(文・写真/河野悠二)



硫黄岳からの横岳、赤岳、阿弥陀岳

<第7期初級登山教室>

鷹ノ巣山 一歩きとおした9時間登山

【日時】2019年10月5日(土)

【天候】晴れ

【参加者】30名(受講生18名、スタッフ12名)〔1班〕暁、川合、近藤、菅野(浅)、中村(美)、班L小河、班SL小山(幸)、SP山本(憲)、SP小澤、〔2班〕小泉、中尾、日向、藤本、皆川、村上、班L中原、班SL村岡、講師野口、山行L河野、〔3班〕上田、茅野、小林、菅野(尤)、長岡、原田、山本(曜)、班L土井(充)、班SL広瀬、講師宮崎、SP石原

【行程】8:15 奥多摩駅発=(バス)=8:45 峰谷→10:10~20 登山口→12:30~13:00 鷹ノ巣避難小屋→13:30~45 鷹ノ巣山→14:20~35 水根分岐→16:00~15 倉戸山→17:40 熱海バス停

【記録】

今回の登山教室の日帰り登山実習は、標高差(約1150m)が大きく、長い歩行時間を必要とする鷹ノ巣山だ。初級の受講生にはなかなかの挑戦だ。事前にトレーニングと山行に励んでおくように言ったせいかどうか、対応できなかった受講生の欠席が多かったようだ。

天気予報は良好で気温も上昇するとのことで、暑さ対策を指示した。増便バスに全員乗車し、峰谷バス停に到着。登山口まで舗装道路をこまめに休憩を取りながらゆっくり進む。登山口から本格的な登山道に入る。浅間神社の鳥居をくぐって高度を上げて行く。樹林帯の中の登山道なので、直射日光からは遮られるが汗が噴き出す。広大な椎茸栽培畑には、驚いたことに運搬用のモノレールも見えた。今回一番の急登を上がり、鷹ノ巣避難小屋に到着し、昼食。予定より30分遅れで出発する。頂上では南側に奥多摩三山の大岳山、御前山、三頭山がはっきり望め

たが、雲がわいてきて期待していた富士山展望はならず。集合写真を撮影して頂上を後にする。長い下りとなるのでストックを使用する。石尾根縦走路から分かれ榎ノ木尾根の急な下りに入る。水根分岐で一息入れる。榎ノ木山を過ぎると迷いそうな広い尾根となる。地図を出して現在地確認。時々トップを交代してルートファインディングを経験してもらおう。猿にも出合うが、熊でなくて良かった。

倉戸山で大休止をとる。ほぼ予定時刻通りとなる。受講生に力が付いてきたことを実感する。最後の下りに緊張が解けないよう注意喚起する。温泉神社付近では大分暗くなってきたが、ここからは舗装された生活道なので、慌てずゆっくり下り、熱海バス停で増便バスを待った。バスは18:15に予定通り来た。長い登山を経験したことは受講生の自信となっただろう。

(文・写真/河野悠二)

正面に御前山、左手奥は人の横顔のような大岳山



鷹ノ巣山山頂にて



<第7期初級登山教室>

高畑山・大桑山 ―フィックスロープを体験―

【日時】2019年11月9日(土)

【天候】曇りのち晴れ

【参加者】34名(受講生24名、スタッフ10名)、山行L河野

〔1班〕暁、川合、近藤、菅野(浅)、高岡、富山、中村(美)、馬場、元木、班L西山、班SL小山(幸)、講師宮崎、SP竹中、〔2班〕上市、高橋(恭)、中尾、藤本、皆川、村上、矢野、班L山本(憲)、班SL村岡、SP小澤、〔3班〕上田、長田、茅野、小林、菅野(尤)、菅野(玲)、原田、山本(曜)、班L土井(充)、班SL中村(敦)

【行程】8:15 鳥沢駅→8:50～9:00 登山口ゲート→9:40～50 石仏→10:40～50 仙人小屋跡→
11:20～55 高畑山→12:45～55 大桑山→13:45～14:00 高畑山→14:25 仙人小屋跡→
15:00～10 石仏→15:45 登山口ゲート→16:20 鳥沢駅

【記録】

台風19号が大きな被害をもたらしたので数日前に下見をすると、倉岳山・立野峠からの月尾根沢沿いの登山道が荒れていた。それでコースを高畑山から大桑山への往復に変更して実施することにした。紅葉はまだ早く、山全体も緑が目立つ。

8:15に鳥沢駅に集合し、ミーティングをして出発。道標に従い小篠集落を抜け、登山口のゲートをくぐり小篠貯水池に出る。林道から枝沢の道は深くえぐれた所があり歩きづらい。オシノ沢を難なく渡り樹林帯を登って行くと、穴路峠方面との分岐に石仏がある。ここからジグザグの登りが始まる。しばらく急登を行きトラバース道になると、植林された仙人小屋跡である。さらに高畑山への尾根に登りあげ、少し紅葉が進んだ急登を2段登ると高畑山に飛び出す。正面に薄っすらと富士山が眺められ、受講生も感嘆の声を上げる。

昼食後、大桑山を目指す。地図では、途中に小さなピークがある。そこは岩場で、ロープが垂れていた。岩場の基部を廻り込むが、受講生の安全と下山を考慮し、フィックスロープを張る。宮崎講師のスムーズな動きに受講生も感心する。ピークを越えて最後



大桑山手前でロープを張る

の大桑山への急登がこたえる。山頂は植林の中で展望は全くない。帰りの急な下りはストックを出し慎重に下る。フィックス箇所は一人ずつ通過し、高畑山に30分強遅れて帰着。高畑山からの急な下りも気が抜けない。石仏まで下りるとホッとした。

ここからの荒れた沢沿いの道は、一部疎林の中を歩く。登山口ゲートに戻り安心したが、いままでの緊張から放たれたせいか、舗装道路歩きを長く感じた。鳥沢駅に着くと東京直通の電車が出るところだった。フィックスロープによる通過や急な下りを体験できたことは、今後の山行の自信になるだろう。

(文・写真/河野悠二)



高畑山山頂にて

< 第8期初級登山教室 >

高水三山 ー新人も加えてワンチームにー

【日時】2019年9月14日(土)

【天候】曇

【参加者】37名／(受講生25名、スタッフ12名)

〔1班〕今中、大澤(啓)、嶋崎、徳永、三原、宮崎(順)、吉田、渡部、班L内藤、班SL竹中、講師宮崎(紘)、SP矢澤、〔2班〕片野、久保嶋、小久保、後藤、白川、高田、山本(由)、班L山本、班SL植草、山行L武藤、SP小池、〔3班〕岩井、郡司、小峯、塩谷、善田、田村(郷)、田村(満)野村、平野、古谷、班L土井、班SL広瀬、SP野口、SP大澤(則)

【行程】8:40 軍畑駅 → 9:15~55 高源寺 → 10:40~50 尾根ベンチ → 11:20~35 常福院 → 11:40~45 高水山 → 12:25~13:05 岩茸石山 → 13:55~14:05 惣岳山 → 15:45 沢井駅

【記録】

初心者向け登山教室が修了し、初級登山教室が始まった。第1回目の実習は高水三山。薄日の差す曇りで歩きやすいコンディション。軍畑駅から登山口直下にある高源寺まで移動する。広場で支部長の挨拶、講師と山行リーダーの説明、班ごとに自己紹介とミーティングを行う。初級から初めて参加する受講生もいるので基本事項の説明を行うが、既習者にとってもよい復習になったようだ。

登山口から樹林帯の登山道を進む。高水山直下の急な下りや岩茸石山手前の急な登りなどの難所もわけなく通過し、岩茸石山に到着する。今回のコースでは唯一の展望スポットだ。遠望はないが眼下に埼玉方面の町が一望できた。棒ノ折山や川苔山などの山々が近くに見える。山座同定など楽しむ。山頂直下の岩混じりの急な下りを注意深く進む。惣岳山の手前の岩場も3点支持で危なげなく通過し、山頂に到着。惣岳山から沢井駅に向けては地図に無い道を進む。地図でルートファインディングのポイントとコ



岩茸石山山頂にて

ースを示し樹林帯に踏み込む。正規の登山道との合流点は、木材の伐採作業が行われ視界が開けており、この日歩いた縦走コースが一望できる。粘土質でやや滑りやすい登山道だが、転倒する者もなく、沢井駅に到着。

新しいメンバーでの初めての登山実習だが、楽しく会話も交わすようになり、新たな班でのチームワークもできつつある。やや長いコースだったが、全員無事踏破でき、体力がついてきているようだ。体力が充実し技術が向上する受講生が頼もしく感じられた。

(文・写真/武藤篤生)

ミニレポート



絶壁に穿かれた水平歩道が続く

黒部水平歩道・下の廊下

日時/2019年10月10-11日(木-金)

参加者/清水(義)、阿久津(会員外)

樺平-水平歩道-阿曾原温泉小屋-黒部ダム

阿曾原温泉までの水平歩道では緊張した。露店風呂で汗を流し、翌日、黒部ダムへ。



黒部川の水の美しさ

< 第8期初級登山教室 >

高川山 —雨だからこそ楽しく—

【日時】2019年11月23日(土)

【天気】小雨

【参加者】34名／(受講生20名、講師・スタッフ14名)

講師・総括L宮崎、山行L内藤、〔1班〕今中、内田、大澤(啓)、嶋崎、徳永、三原、班L広瀬、班SL中村(敦)、SP竹中、SP人見、〔2班〕天野、小俣、久保嶋、小久保、後藤、高田、班L富永、班SL小野、SP小池、SP石川、〔3班〕岩井、小峯、塩谷、善田、田村(郷)、田村(満)、平野、上原、班L土井、班SL清水(茂)、SP大澤(則)、SP浅香

【行程】9:30 初狩駅→10:00 登山口→女坂コース→11:50～12:25 高川山→古宿コース→13:40～14:00 林道広場→14:25～50 浄泉寺→15:00 禾生駅

【記録】

10月の棒ノ折山山行が台風で流れて、9月以来の教室山行。残念ながら今回も雨。欠席者も多かった。9:00に初狩駅集合。「雨だからこそ楽しく歩きましょう!」と出発。高川山にはルートが多く、地図読みの練習に格好である。登山道に入っすぐ、女坂・沢コース分岐。現在地と進む方向を確認してもらう。以後、分岐ごとに地図読みの練習をする。途中、レインウェアの使い方なども説明する。女坂の途中に崩落箇所があり、巻き道がついている。慎重に通過。雨の中、久しぶりの山行の受講生も多かったが、順調に山頂に到着。案の定、富士山どころか展望はゼロ。けれども、いつもは登山客で賑わっている山頂がほぼ独占状態。雨にも良いところがある。予定を



雨の中でも元よく高川山山頂にて

変更して山頂で昼食。下山は古宿コースで禾生駅へ。雨で滑りやすい道を慎重に下る。転倒もあったが、無事、林道まで下りた。広場で雪山講習に向けてアイゼンの説明。恒例の班リーダーの持ち物公開は、浄泉寺の屋根付き駐車場で実施。お寺の方に声をかけたら、快く貸していただけました。持ち物の様々な工夫や共同の安全装備など見て、参考になったと思う。禾生駅には予定の45分前に到着。雨の中でも楽しく歩けたことが今回の収穫。次はぜひ、個人山行で山頂からの雄大な富士を眺めていただきたいと思う。

(文・写真/内藤誠之郎)



崩落箇所を巻く

ミニレポート

馬蹄形登山を目指して谷川岳へ

日時/2019年11月2-3日(土-日)

参加者/L中原、清水(茂)、西山

2日 西黒尾根-谷川岳-ノ倉岳-茂倉岳-蓬ヒュッテ

3日 蓬ヒュッテ-新道-ロープウェイ駅下山

1日目冬季避難小屋に入ったが2日目悪天のため縦走を断念。様々なアクシデントを乗り越えた実り多い山行だった。



谷川岳山頂にて悪路の新道を下る

< 登山教室修了生補習山行 >

霊峰八海山 —「米良し、酒良し、鎖ヨシ！」—

【日時】2019年8月31日(土)～9月1日(日)

【天候】1日目 晴れ、2日目 曇り時々晴れ

【参加者】34名(修了生21名、スタッフ13名) 総括L宮崎(紘)、〔1班〕諏訪、寺井、櫻井、矢澤、関口、班L植草、山行L清水(茂)、SP岡、〔2班〕大根、前田、小澤、石川、今野、班L青木、SP武藤、SP西村、〔3班〕高間、森、三ツ井、内村、小林、班L土井(充)、SP吉川、〔4班〕菊池、玉井、馬場、大澤、人見、神戸、班L村岡、SP山本(憲)、SP北原、講師野口

【行程】1日目／7:10 立川=(貸切バス)=10:30～15:00 南魚沼「魚沼の里」=16:00 民宿やまなみ
2日目／7:00 民宿=(貸切バス)=7:20～8:00 山麓駅=8:10～15 山頂駅→8:40 大倉口分岐→9:45～10:00 女人堂→11:20～45 千本檜小屋(昼食)→12:20 地蔵岳→12:30 不動岳→13:00 千本檜小屋→13:30 薬師岳→15:00 女人堂→16:00 大倉口分岐→16:40 山頂駅=17:00 山麓駅=(貸切バス)=20:50 立川

【記録】

◆8/31◆2回目の4・5期生補習山行で、中級登山教室生にはリーダー体験山行。「魚沼の里」は八海山醸造が運営している里山で、レストランや見学施設が点在している。社員食堂で昼食。コシヒカリのおいしさに感動。食後はビール醸造所、雪室見学や様々な日本酒の試飲、石動(いすぎ)神社に参拝などを楽しむ。「千年こうじや」でも試飲し土産を購入。宴会でお酒とごはんを堪能。クイズ大会で盛り上がり楽しい前夜となる。

◆9/1◆6時起床。ロープウェイで山頂駅へ。八海山大神に安全祈願をして出発。四合目で紅白の布を巻き付けた柱を背負子で運ぶグループと出会う。柱は大学受験の合格祈願柱で、千本檜小屋へ奉納するとのこと。200名程の高校生が入山してくるといふ。薬師岳手前に狭い尾根や鎖場があり、1人ずつ登る。千本檜小屋で昼食。小屋の周りは高校生軍団で混雑していた。昼食

後、地蔵岳へ。狭い尾根や鎖場で肝を冷やし、12時半に不動岳。千本檜小屋に戻ると高校生が列を成し、薬師岳の先の鎖場で45分待つ。ロープウェイの最終は17:00、冷や冷やしたが何とか増発便に間に合い全員無事に下山した。

(文/青木義仁、写真/参加者)

☹️ 清水感想・変則的な事態の判断が難しかった。懇親が深まったことは収穫だが、リーダーとしては未熟さと難しさを感じた。

☹️ 石川感想・カタクリの花が見頃の時期にまたあのごはんを食べに行きたい。

☹️ 大澤感想・長い鎖場で緊張感が一気に増す。「足掛かりを確認して！鎖に体を預けて！」など檄がとぶ。地蔵岳・不動岳には神秘的な形の岩があり、山頂には仏像や燭台・碑が設置され、深い信仰の場であることを実感した。「米良し、酒良し、鎖ヨシ！」



地蔵岳から不動岳の仲間にエールを送る



肝を冷やした後も笑顔で不動岳で万歳

< 登山教室修了生補習山行 >

茅ヶ岳・金ヶ岳 —展望と紅葉を楽しむ—

【日時】2019年11月2日(土)

【天候】晴

【参加者】34名(4期生10名、5期生12名、スタッフ12名) 山行L 富永、総括L 宮崎、[1班] 班L 濱野、班SL 中村(敦)、今野、解良、神戸、小澤、菊池、矢澤、SP 佐久間、[2班] 班L 齋藤、班SL 武藤、人見、山内、石川(さ)、小林(万)、玉井、大澤、寺井、森、SP 西村(智)、SP 山本(憲)、[3班] 班L 内藤、班SL 吉川、小池、関口、三ツ井、浅香、諏訪、高間、大根、馬場、SP 野口

【行程】6:50 立川駅北口=(バス)=9:25 ~ 45 深田公園入口→11:00 女岩→12:45 ~ 13:15 茅ヶ岳→14:30 ~ 45 金ヶ岳→17:20 ふれあいの里公園→17:40=(バス)=18:30 ゆーぶら萐崎=(バス)=20:35 立川駅北口

【記録】

補習山行3回目は、『日本百名山』の著者、深田久弥ゆかりの「茅ヶ岳」。車中、氏が日本山岳会員で副会長も務めたことが紹介された。

三連休初日だったが、わずかな遅れで深田公園に到着。中級登山教室の山行L、班Lは、茅ヶ岳ピストンもやむなしと考えていたので一安心。女岩付近まで谷を進み、そこから尾根に向けて急登になる。喘ぎながら尾根上に出ると視界が



茅ヶ岳山頂にて

開ける。程なくして深田久弥終焉の地の石碑だ。脳卒中で亡くなったとのこと。享年68。石碑を過ぎれば山頂はすぐそこ。振り返ると白く冠雪した富士の姿があった。岩場を慎重に越えて茅ヶ岳に登頂。ハイタッチ、集合写真。青空が目には沁みる。奥秩父の山並み。金峰山の五丈岩もはっきり見える。南アルプスのスカイライン。金ヶ岳の背後には八ヶ岳の峰々。

茅ヶ岳を後にして金ヶ岳へ向かう。100mほど下って登り返す。岩のトンネルや色づいた紅葉の樹々が気を紛らわせてくれた。金ヶ岳山頂に到着。越えてきた茅ヶ岳の隣に富士が浮かび、絵になる風景だ。

下りはしばらく急峻な岩場が続く。大人数での悪場の通過には時間がかかった。下山口に着いた時にはすっかり日が暮れていた。温泉で汗を流し、予定の1時間遅れで立川に帰着。

(文・写真/内藤誠之郎)



茅ヶ岳山頂から金ヶ岳の背後に八ヶ岳



金ヶ岳山頂から茅ヶ岳と富士

☺ 小林(4期)感想・茅ヶ岳から金ヶ岳まではアップダウンがたっぷりあり、やせ尾根や岩場の通過もスリルがあり、振り返った茅ヶ岳がデーンと大きく印象的でした。

☺ 馬場(5期)感想・女岩から茅ヶ岳、金ヶ岳と急登急下降の繰り返し、疲れを癒してくれたのは富士山と紅葉の山並みでした。

< 個人山行 >

台湾の玉山遠征 一絶好の好天に恵まれ絶景の山頂へー

【日時】2019年11月24日(日)～26日(火)

【天候】両日とも快晴

【参加者】10名/L小口、SL中原、山本、武藤、佐久間、石原、植草、齋藤、元木、柳田

【行程】1日目台北松山空港=チャーターバス=阿里山閣大飯店泊

2日目 9:30 塔塔加鞍部登山口(2610m)→15:40 排雲山荘(3402m)

3日目 3:20 排雲山荘発→6:00 山頂(3952m)→8:10～9:00 山荘→12:50 塔塔加登山口

【記録】

台湾の玉山、日本統治時代の名は新高山に登るプランが企画された。登山道は整備され、技術的に難しくないが、富士山より高いために高山病の注意が必要。現地ガイドは中華民国山岳協会東アジア部長の林哲全氏。田部井淳子さんのガイドを務められるなど、多くの日本人がお世話になっている。

◇11/24◇ 阿里山国立公園内にある阿里山閣大飯店に前泊。阿里山は山の名前ではなく祝山、尖崙山、対高岳山など18もの山からなる一帯の名前であることはご存知だろうか？

◇11/25◇ 塔塔加登山口から排雲山荘まで、約8.5km、標高差約800mの登り。登山口の気温は約30℃で、長袖では暑いくらいだった。山荘まで、0.5km毎に道標がある。トイレは2ヶ所あるが売店はなかった。高度順化を図りながらゆっくり登る。白木林展望台(3096m)で昼食を摂り、15:40に排雲山荘着。煮沸したお湯を無料で分けて貰えるが、水は山から引いた水をそのまま使う。

◇11/26◇ 2:00起床。2:30に食事を摂り、3:20に山荘を出発。山頂までは約2.4km。山頂直下、若



朝日を浴びて玉山山頂にて

干風があり、屋根のある岩場で時間調整をした。6:00前に玉山山頂(3952m)に到着。記念写真の長い列。日の出は6:00過ぎ。風はほとんどなく、滅多にないような晴天とのことで、ご来光を拝むことが出来た。360度の展望でいつまでも去りがたかった。7:00に下山開始、8:10に山荘に戻って軽食を摂り、9:00に出発した。12:50に塔塔加登山口に戻り、東埔温泉に泊まった。日本と違い水着着用が必須だったが、水着の用意はなく、内風呂で汗を流した。

企画・手配・実行して下さった小口さん、中原さんに感謝。全員が登頂出来て良かった。下山後、山の仲間と食べる食事はどれも美味しかったし、台湾ビールも美味しかった。台湾の人達の温かいおもてなしも心に残った。



中華民国山岳協会の皆様と

(文/柳田泰則、写真/参加者)



ご来光

< 低山を楽しむ会 >

中央線から見える中山と入笠山

【日時】2019年9月23日(火)~24日(水)

【天候】両日とも晴れ時々曇り

【参加者】1日目12名、2日目10名/L河野、SL石塚、小口、川口、北原、田中(清)、中野、本多、松川(征)、岡、1日目のみ長澤(洋)、古市

【行程】1日目/10:00日野春=10:30万休院近くの駐車場→12:10~40中山→14:10駐車場=14:20~40万休院=16:00ロッジ山旅(泊)

2日目/8:30ロッジ山旅=スキー場=10:30ゴンドラ上→12:00~30入笠山頂→13:30入笠湿原→14:20ゴンドラ上=スキー場=15:00小淵沢駅

【記録】(9/23)中山(887m)は日野春駅の西5kmにあり、甲斐国の辺境武士団である武川衆の砦として重要な存在だった。天然記念物「舞鶴松」で有名な万休院の駐車場から林道を歩き始めると左手に道標「中山登山口」があり、登山開始。

最初のピークは広く平らな中山砦跡で、立派な案内板や三角点があり、5、6分先に展望台があった。砦跡から北の尾根を下り、途中で登りのコースと合流する周遊コースを辿った。帰路、万休院の境内を見学して「ロッジ山旅」へ向かった。



合流点で元気な一行

ロッジの主は送迎や案内をしてくださった長澤洋氏(JAC会員)。応接間には沢山の山の本があり、美味しい手料理と少々(4合瓶5本)のお酒で山談義に花が咲き、楽しい一夜を過ごした。長澤さんご夫妻に感謝!(9/24)2月の入笠山は登山教室では定番だが、無雪期の入笠湿原やゴンドラ上のお花畑はみごとだった。花の最盛期はもっと素晴らしいだろう。

(文/岡義雄、写真/石塚嘉一)

サテライト・サロン立川

田邊 壽さんの山のスケッチと話を聞く会

11月11日に第31回サテライト・サロン立川を開催した。田邊壽さんを講師にお迎えした第5回「先輩の山の話をする会」に34名の会員が参加した。

田邊さんは米寿を迎えられたが、お元気でお声にも艶があり、とてもお年に見えなかった。山との出逢い、山での喜び、山での痛み、数々の経験、そして仕事での活躍、山と仕事のバランス。その物語に合わせたように山のスケッチが映し出された。青梅に生まれ、山と川に抱かれて育ち、立川二中で友人に誘われて登ったのが初めての山登りで本仁田山へ。「何かが私の心に入ってきた」と言われたのが、印象的だった。二人の先生と出会い、地歴部山岳班を山岳部に昇格させ部長になった。初恋に出逢い、文学に出合った。慶応大学へ進み、多くの先輩方との出会いがあり、山への思いが加速した。劔岳~檜~西穂を積雪期に23日間雪洞で成し遂げた。卒業後、初のヒマラヤで左足小指を凍傷で落とし、最愛の人から別れの手紙が届き、目的の山へ登れず、絶望で終わった。が、その後ヒマラヤの未踏峰ヒマルチュリへ。とても凄絶で輝かしく、いとおいしい、山への思い、仕事への思いのドラマが語られた。

田邊さんの話を、田邊さんの世代の方々と、登山教室世代の私達と一緒に聞いたのがよかったです。山岳会に入って本当によかった。田邊さん、いつまでもお元気で。(文/中原三佐代)

インフォメーション／山行・イベント

山行委員会 / 定例山行

◆**荒船山（西上州）** 3/28(土) ★/★★
船のような特異な山容。集合 /JR 立川駅北口 06:45、立川=(マイクロバス)=内山峠→鱸岩→経塚山(行塚山)→星尾峠→荒船不動=18:00 立川、歩行 /4 時間、申込 / 内藤、締切 3/21(土)

◆**御岳山長尾平（奥多摩）** 4/11(土)
東京多摩支部設立 10 周年記念懇親会。特製いも煮を味わって懇親を深めよう。詳細は同封チラシ参照。

◆**日光庚申山（足尾）** 5/16(土)~17(日) ★★/★
奇岩の連なる信仰の山。集合 /JR 分倍河原駅東口 09:00、1 日目 09:10 分倍河原駅=北関東自動車道=足尾銅山=15:15 国民宿舎かじか荘(14500 円 / 人)、2 日目 08:00 出発→一の鳥居→猿田彦神社跡→12:30~13:00 庚申山→一の鳥居→16:20~17:00 かじか荘(入浴)=20:00 分倍河原駅、歩行 /8.5 時間(2 日目)、申込 / 酒井、締切 5/7(木)

◆**戸倉三山（奥多摩）** 6/20(土) ★★/★
秋川流域の 3 峰を縦走。集合 /JR 武蔵五日市駅 07:00、武蔵五日市駅=元郷 BS→白杵山→市堂山→刈寄山→今熊山→今熊 BS、歩行 /8.5 時間、申込 / 富永、締切 6/6(土)

〈第 29 回「山好きの山の絵展」〉



主催 日本山岳会 アルパインスケッチクラブ
会期 2/16 日(日)~22 日(土) 10 時~18 時
(日は 11:45 から。最終日は 17:00 まで)
会場 東京交通会館 2F ギャラリー
(千代田区有楽町 2-10-1)

支部員の田邊、菅沼、長澤、田中(清)、笠原、原山、宇田氏が出展予定

★は「体力 / 危険度」

山行委員会 / 平日山行

◆**セーメーバン（南大菩薩）** 3/12(木) ★★/★
不思議な山名セーメーバンに行く。集合 / 大月駅改札口 08:50、大月駅=(タクシー)=森屋荘→サクラ沢峠→セーメーバン(清明盤)→大岱山→宮地山→宝鐘寺薬師堂=大月駅、歩行 /5 時間 20 分、申込 / 西山、締切 3/3(火)

◆**八重山（上野原）** 4/9(木) ★/★
五感の森ハイキング~シュンランに会いに。集合 /JR 上野原駅改札口 08:30、上野原=向風バス停→能岳→八重山→展望台→駐車場→秋葉山→根本山→上野原駅、歩行 /4.5 時間、申込 / 中原、締切 3/31(火)

◆**伊豆 / 天城山** 5/28(木) ★★/★
百名山、天城シャクナゲを楽しむ。集合 /JR 伊東駅 09:00、伊東駅=(タクシー)=天城高原ゴルフ場→万二郎岳→万三郎岳→天城高原ゴルフ場=(タクシー)=伊東駅、歩行 /5 時間、申込 / 鬼村、高砂、締切 5/15(金)

◆**高尾山** 6/18(木) ★/★
金毘羅宮・浄心門経由で山頂。集合 /JR 高尾駅北口 09:20、高尾駅北口→落合→金毘羅台園地→(1 号路)→ケーブル高尾山駅→(4 号路)→吊橋→高尾山頂上→薬王院→(1 号路)→ケーブル高尾山駅→ケーブル清滝駅 申込 / 副島、締切 6/6(土)

〈第 32 回サテライトサロン立川 第 6 回「先輩の話を聞く会」〉

講師 西村智磨子さん
タイトル 子育てを終えてからの山登り
日時 3 月 23 日(月) 18:30~20:00
会場 立川女性総合センター 5 階第 3 学習室
参加費 200 円
申込 中原三佐代 nakahara334ron@gmail.com
会員番号、氏名、終了後の懇親会参加有無を記入。

〈連絡先〉

鬼村邦治	onimura@jcom.zaq.ne.jp	090-1119-0644
高砂寿一	toshikazu001@mac.com	090-8053-3040
酒井俊太	shuntasakai00707@nifty.com	090-9317-4157
副島一義	Mayu333soe@nifty.com	090-5778-7336
富永真由美	tomih@palette.plala.or.jp	080-2053-2063
内藤誠之郎	siro7110@yahoo.co.jp	080-3024-7882
中原三佐代	nakahara334ron@gmail.com	090-2652-2450
西山さより	okabasaku3911@gmail.com	090-9801-4146

会務報告

支部合同会議報告

事務局長 山本憲一

夕刻に晚餐会が開催される12月7日の午前、支部合同会議が開催された。

まず、120周年記念事業の進捗状況について報告された。「日本列島古道調査(仮)」について日本山岳会ならではの視点での選定が必要とのことで、全国の支部に呼掛ける事になった。例として、修験道の道、山越えの道などが考えられる。2020年1月末までの提出依頼。

2019年度後半「海外登山助成金」の募集案内があった。対象は2020年2月1日～7月31日の間に海外の山へ出発する登山隊で、2月中旬に委員会で審査後、理事会で決定。

2020年度「特別事業補助金」の募集案内がされた。補助総額100万円。1支部1件、上限は20万円。

2019年度「第9回登山教室指導者養成講習会」の募集案内があった。講習会は2020年2月1～2日に安藤百福自然体験活動指導者養成センターで開催。

登山計画書提出状況と事件事例について説明があった。遭難対策委員会へ連絡が必要な遭難事故は、警察、消防、山小屋その他の公的機関に救助を要請した場合と予定下山日時を過ぎても連絡がなく、遭難対策本部を立ち上げるなど捜索救助活動を開始した場合。連絡方法は電話とする。

支部での名簿作成と個人情報について、本人から直接同意を得て作成していない名簿、また利用範囲と管理・保管方法を明らかにしていない名簿作成は違法になる。会員名簿作成を検討中。

幹事会報告 (特記事項のない委員会の報告は省略。詳細は支部HP「会議案内」を参照)

112-114回幹事会報告出欠(3回とも出欠、会場は変わらないので省略)

出席：野口支部長(会報兼務)、高橋副支部長(10周年記念事業兼務)、武藤幹事長(総務兼務)、山本事務局長(ICT兼務)、植草(財務)、河野(自然保護)、小野(山行)、佐藤(安全対策)、中村(敦)(奥多摩BC)、岡田(監事)小口、小清水、計12名、欠席：長瀬、石塚、記録 山本

会場：立川女性総合センター5階第1会議室

■第112回 幹事会報告

日時 2019年10月15日(火) 18:30～21:55

[野口支部長挨拶] 台風の影響が大きく、今後、各地の被災状況が判明するだろう。

[事務局連絡] (山本) 都岳連関連「新春の集い」と冬山の気象講習会(11月12日「低体温症と凍傷・怪我等」(野口いづみ講師)など)の紹介、支部関連として南関東三支部懇親山行、本部関連として支部合同会議を報告(38号、p.2)。2020年度支部事業計画・予算書の提出期限、2019年度支部事業報告書・会計書の提出期限についての報告、各委員会から提出された2020年度事業計画案を検討した。

[審議事項]

(高橋、10周年記念事業) 講演会のプログラムと記念品について報告。記念品は日本山岳会マーク入り奥多摩産木材仕様ペーパーナイフの飾りが、反対1名で承認された。

(武藤、総務) 表彰規程案について説明。承認され、10月15日から施行。

(佐藤、安全対策) 安全登山対策規程案、遭難対策要領案について説明、質疑応答。11月幹事会で審議。

(事務局、各委員会、PT) 2020年度事業計画案を説明、質疑応答を行う。

[委員会報告]

(野口、会報) 支部報名は「たま通信」から「会報たま」に変更。校正をお願いする。発行は2月、5月、8月、11月の4回。

(山本、ICT) 山行報告原稿は1か月以内に送ってほしい。

(小野、山行) 焼石岳事故報告書を安全対策委員会へ提出した。必要に応じて修正する。山行計画の立案のために会員の希望を把握するアンケート調査を毎年行う。

(河野、自然保護) 里山自然保護活動と高尾山シモバシラ観察会について報告。

(佐藤、安全対策) 安全登山講演会(39号p.4参照)、登山技術講習会(縦走中のロープ使用方法)(39号p.5参照)を実施した。

(山本、登山教室) 台風の影響で10月19日第8期「棒ノ折山」を中止。

■第113回 幹事会報告

日時 2019年11月19日(火) 18:30～21:00

[野口支部長挨拶] 南関東三支部合同懇親山行と懇親会が実施され好評だった。11月2日修了生補習山行「茅ヶ岳・金ヶ岳」と11月定例山行「浅間隠山」は参加者が多かった。

[事務局連絡] (山本) 都岳連関連として平成30年度決算経常収支で593万円の黒字と報告されたが、実際は580万円の赤字だったので、12月10日に説明する。自然保護指導員の研修会・公開講演会の案内。支部関連として南関東三支部実施(p.3参照)。本部関連として支部合同会議が開催された(上記参照)。台風15号、19号などによる山岳エリア被害情報提供の依頼が本部よりあり、結果を支部連絡会と年次晚餐会展示会場で発表予定。調査報告のまとめを石井安全対策委員長に依頼した。小川武会員からザンスカール未踏峰遠征費の10万円が寄付された。来期事業計画案と事業予算案検討スケジュール報告。

[審議事項]

(武藤、総務) 10周年記念事業の表彰状文面について検討。記念式典の食事はビュッフェ形式にし、会費は講演会参加費を含んで7,000円。安全対策関連各規程について積立金規程、安全登山対策規程、遭難対策規程の文言を精査し、一部文言を修正することが提案された。

(植草、財務) 2019年度中間決算についてほぼ予算通りに経過している。財務委員会で現在各委員会からの請求書案をまとめている段階で、次回精査した形で報告する。

(事務局、各委員会、PT) 予算請求書案を説明、質疑応答を行う。

[委員会報告]

(野口、会報) 38号は254部と石塚氏からの依頼37件を封入し、メール便で手配。会員からの感想は、「見やすい」、「ミニレポートが斬新」、「きれい」など。

(山本、ICT) 会報配信用 ML 作成申請書類整備、本部 DM 委員会へ提出。DM 委員会より 33 支部の ML アドレス、役員の ML アドレスを受領。11 月 10 日、57 名の支部会員に配信。HP 画面の変更作業を開始。

(佐藤、安全対策) 登山計画書受理・検討業務担当は佐藤、中村哲、河野、北島、石井の順で月交代で実施。登山技術講習会実施 (p.5 参照)。12 月 2 日と 20 日に「緊急時における遭難対策本部の対応シミュレーション研修」を予定。

(山本、登山教室) 9 期初心者向け登山講座は立川市民交流大学の募集要領が変更され、毎年連続での応募は 4 回までとなり、来年度の申請書は受理されなかったため、多摩支部独自で開催。

(高橋、10 周年記念事業) 11 月 6 日 10 周年記念事業「海外登山説明会」開催。「ザンスカール未踏峰」の費用は、原則参加者負担であるが、不足分は寄付・助成金等でまかなう。

(監事) 委員会の議事録に委員の出欠を書いてほしい。

■第 114 回 幹事会報告

日時 2019 年 12 月 17 日 (火) 18:30 ~ 19:52
[野口支部長挨拶] 年次晩餐会は天皇陛下が参加され 500 名を超える参加者があった。東海支部との合同二次会も盛り上がった。

[事務局連絡] 都岳連関連として「2020 年都岳連シンポジウム～これでいいのか都岳連?～」が 2 月 29 日が開催される。支部関連として、2020 年度全国支部懇談会が宮崎支部主管開催で 5 月 16-17 日に開催予定。

[審議事項]

(武藤、総務) 一部の委員会で事業計画変更の申請あり。事業計画について全会一致で承認。

(植草、財務) 予算案について説明。当年度決算は収入合計 8,726,500 円、支出合計 8,922,840 円、繰越収支差額:△196,340 円。安全対策積立金 5 万円をプラスして約 25 万円の赤字になるが、周年事業積立金 202,000 円とその他繰越収支差額が 12 万円ほどあるので問題はない。締められるとこ

ろは締めてほしい。本部に提出する予算はまとまり次第幹事会 ML で流して承認を得たい。会報委員会は 10 万円以上の支払いは相見積もりをとってほしい。予算作成に関しては 1 号毎の経費など、細かい項目を示してほしい。

[委員会報告]

(植草、財務) ザンスカール遠征登山支援の募金に関する事前報告書を支部長から本部へ送付。寄付専用口座として新規に郵便振替口座を作成することを決定、支部長に口座開設手続きを依頼。

(武藤、総務) 10 周年記念行事の講演会、式典準備を進めている。講演会チラシ完成し、山用品店などへ配布依頼。会員名簿は本部での名簿作成状況を見ながら検討。

(野口、会報) これまで会員以外に警察署、ビジターセンター、役所観光課、鉄道など 37 件に配布していたが、新聞社、山岳救助隊などを中心に 20 件弱に絞る。(佐藤) 山小屋に送ってはどうか。39 号は 2 月上旬発行予定。10 周年記念式典と講演会の報告を待って原稿完成となるため、式典の原稿は実施後 1 週間以内にほしい。

(小野、山行) 10 周年記念懇親山行の案内をした。(河野、自然保護) 里山自然保護活動と高尾山シモバシラ観察会予定の報告。

(佐藤、安全対策) 12 月 20 日に「緊急時における遭難対策本部の対応シミュレーション研修」を予定。1 月と 3 月にセルフレスキュー講習会を予定。(中村、BC 運営) 1 月 12 日「氏神様初詣と BC 開き」開催予定。

(山本、登山教室) 12 月 14 日第 7 期講座「冬の山に備える&懇親忘年会」実施。忘年会は 24 名参加。2020 年度中期登山教室受講生は 10 名程度の募集を行う。第 9 期初心者向け登山教室は HP を中心とした募集活動を行う。本部と連携して準備を進める。

(高橋、10 周年記念事業) 記念誌は 5 月の通常総会にて配布予定。6 月 20 ~ 25 日、海外登山 (モンゴル)。10 月 10 ~ 11 日記念懇親山行「雲取山」。10 周年式典表彰者に意向確認中。

会員移動 10 ~ 12 月 (総務委員会)

	入会	氏名	会員番号	住所
12 月	準会員	上原加津雄	A0264	調布市

退会 / 森合孝信 13758、田中恵美子 9811(以上支部のみ退会)
丸山広幸 A0042 (JAC 退会)
仲谷朋尚 15512 (JAC 退会) (2019 年 12 月 6 日ご逝去)

会員動向 10 ~ 12 月 (総務委員会) (人数 / 名)

	総会員	通常会員	準会員	会友
10 月末日	323	251	71	1
11 月末日	321	249	71	1
12 月末日	322	249	72	1

2019 年度会費入金状況 (財務委員会) (人数 / 名)

	入金者数	未入金者数	備考
9/30	272	52	
10/31	274	50	
11/30	274	49	2019/4/30 退会者 1 名
12/30	274	49	

登山計画書受理・検討業務件数 (安全対策委員会) (件)

月	支部山行	同好会山行	個人山行	合計
9 月	5	1	13	19 (前年 13)
10 月	6	0	10	16 (前年 19)
11 月	5	0	8	13 (前年 25)
12 月	3	0	10	13 (前年 13)
4-11 月合計	45	8	93	146 (前年 140)

BC 利用状況 (BC 運営委員会) (人数 / 名)

	宿泊			日帰り・一時利用 (休憩)		
	会員	会員外	合計	会員	会員外	合計
10 月	3	0	3	37	0	37
11 月	0	0	0	14	0	14
12 月	0	0	0	0	0	0
4-12 月合計	20	4	24	122	0	122

カレンダー（2020年2月10日～5月31日）

日程	山行	イベント（講座・講演）
2/13（木）	平日山行「大楠山」	
2/15（土）	8期登山実習「陣馬山」	
2/22-23（土日）	中級登山実習「上州武尊」	
2/22（土）	定例山行「霧ヶ峰スノーシューノバイク」	
2/27（木）		安全対策委研修会「セルフレスキュー」
3/7-8（土日）	7期登山実習「雲取山」	
3/12（木）	平日山行「セーメーバン」	
3/21（土）	8期登山実習「百蔵山・扇山」	
3/23（月）		立川サロン「西村智磨子さんの話を聞く」
3/28（土）	定例山行「荒船山」	
4/1（水）		9期初心者登山教室「山の歩き方」
4/4（土）	8期登山実習「棒ノ折」or「竜ヶ岳」	
4/5（日）	奥多摩山開き	
4/9（木）	平日山行「八重山（上野原）」	
4/11（土）	10周年記念山行「長尾平」	
4/15（水）		9期初心者登山教室「登山装備全般」
4/18（土）	2期中級登山実習「天祖山」	
4/22（水）		8期初級登山教室「山の天気」
4/25（土）	9期登山実習「三頭山」	
5/9（土）		東京多摩支部総会
5/13（水）		9期初級登山教室「地図の読み方」
5/16-17（土日）	定例山行「庚申山」	
	宮崎全国支部懇談会	
5/23-24（土日）	8期登山実習（山研）「上高地」	
5/23-24（土日）	2期中級実習「大菩薩嶺～黒岳」	
5/27（水）		9期初心者登山教室「山の天気」
5/28（木）	平日山行「天城山」	
5/30（土）	9期登山実習「大岳山」	
5/31（日）	安全対策委メディカルハイキング	

原稿の締め切り

会報の原稿は、山行や講演会の実施後1カ月以内に送ってください。投稿締め切りは発刊予定の1カ月以上前の月末です。5月発刊の場合は3月末、8月号は6月末、11月号は9月末、2月号は12月末になります。締め切り前にお送りいただけなかった場合は掲載できない場合や次号送りになる場合があります。頁割の都合がありますので、遅れる場合は事前にご連絡ください。原則として会報委員会にメールでお送りいただいた原稿を、掲載させていただきます。



定例山行

山行委員会予定（2020年7月～）

	日（曜日）	山名
7月	4～5日（土日）	田代山・帝釈山（南会津）
8月	1～2日（土日）	白砂山（上信越三国山脈）
9月	12～14日（土～月）	槍ヶ岳（北アルプス）
	26日（土）	王岳（御坂山塊）
10月	10～11日（土日）	雲取山（10周年記念）
11月	14日（土）	鶴ヶ鳥屋山（中央線南域）
12月	12日（土）	鍋割山（丹沢）
1月	23日（土）	権現山（上野原）
2月	27日（土）	浜石岳（静岡県）
3月	27～28日（土日）	美ヶ原スノーシュー

平日山行

	日（曜日）	山名
7月	16日（木）	興因寺・湯村山（甲府北）
9月	24日（木）	奥武蔵・丸山
10月	22日（木）	榛名山
11月	19日（木）	守屋山（南アルプス前衛）
12月	24日（木）	秋山二十六夜山（道志）
1月	21日（木）	鋸山（千葉県）
2月	25日（木）	棒ノ折山
3月	18日（木）	四阿屋山 アズマヤサン（奥秩父）

編集後記

支部設立10周年記念式典が無事開催されました。会員の皆様の方の力があってこそ、10年の節目を迎えられたと思います。これから新しい一歩を踏み出していくこととなります。皆様の一層のご協力をいただきたく、お願い申し上げます。さらなる発展を目指しましょう！

（野口いづみ）

会報 **たま** 第39号 2020年2月11日発行
 発行所 公益社団法人日本山岳会東京多摩支部
 〒188-0011 東京都西東京市田無町 4-11-11
 izumi_noguchi@yahoo.co.jp,
 kaihoutama@yahoo.co.jp
 会報委員会 野口いづみ、石川さとみ、加藤真美、
 村岡庸こ、吉川三鈴